

試験問題のマルチメディアデিজネーションに関する実践的研究

企画者	金森裕治（大阪教育大学）
司会者	楠敬太（大阪大学）
話題提供者	井阪幸恵（和泉市立国府小学校）
	森慶子（香芝市立下田小学校）
	柳原伸子（東御市立和小学校）
	金森裕治（大阪教育大学）
指定討論者	神山博（青森公立大学）

KEY WORDS: マルチメディアデিজネーション 試験問題 実践研究

【企画趣旨】

2016年から施行された障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律では、障害者に対して合理的配慮を行うことが求められている。教育分野における合理的配慮として教科書を含む教材については、障害特性に応じたデジタル教科書・教材を用いた教育の情報化が推進されており、合理的配慮及びその基礎となる基礎的環境整備が必要とされている。

近年のデジタル技術の進歩により録音図書、デジ図書が普及、さらには音声に加えて同じ内容のテキストや画像も表示可能なマルチメディアデিজネーション図書が普及しつつある。

読み書きに困難のある児童生徒の学習特性に応じた活用が可能であるマルチメディアデিজネーション図書は、教育における合理的配慮となることが考えられる。そのため、基礎的環境整備としてマルチメディアデিজネーション図書を必要な時にいつでも活用できる環境を整備することが必要であると言える。

日本障害者リハビリテーション協会は、教科書製作ボランティア団体と協力し、小中学校の検定教科書をマルチメディアデিজネーション化して提供している。しかし、試験問題はマルチメディアデিজネーション化されておらず、試験の際に、合理的配慮を提供できていないのが現状である。そこで本シンポジウムでは、試験問題をマルチメディアデিজネーション化した事例を通して、課題及び今後の展望を検討することを目的とする。

【話題提供者の趣旨】

井阪幸恵（和泉市立国府小学校）

ここ数年子どもたちの学習上の弱さを丁寧に把握している。そこで見えてきたのは、読みの課題を有することによって学力低下を起こす児童が相当数いるという現実である。ペーパーベースのテストでは20~30点しか取ることができなかった児童が、事前にデジ教科書を数回読むだけで70~80点取れることは通例と言える。また、代読があれば初見の文章でも同様な結果が得られる。そのため、テスト問題をデジ化すれば、代読による人的な制約がなくなるだけでなく、児童が自ら一人で問題解決できることは自尊心が向上し達成感を得ることができる。本校での実践の様子や方法等を紹介する。

森慶子（香芝市立下田小学校）

LD傾向で読み書きに困難さがある児童に対して、マルチメディアデিজネーションを使用している。

テスト問題もデジ化しており、児童によっては細かい速さの調整やハイライト機能を選択することができたので、読みやすかったようである。

その結果、普段行っているルビ付きのテストより正答率

が高く、テストの所要時間も短縮することができた。テストの結果ではデジ化した試験の結果がよかったものの、二人ともやりやすと感じたのは、普段から行っているルビ付きテストだったようである。今後はデジの操作性を向上させ、より身近なツールとして使える環境を構築していくことが望まれる。

柳原伸子（東御市立和小学校）

通常学級の国語の授業において、読み書きに支援の必要な児童がデジ教科書を使用している。また、既習の国語のテストをマルチメディアデিজネーションとペーパーベースで実施し両者とも9割前後の正答率となっている。徐々にテストに対する本児のモチベーションも高まってきている。一方、初見文のペーパーベースのテストの際には代読及び問題文の説明を必要としている。

そこで、マルチメディアデিজネーション化した初見文のテストをタブレット上で繰り返し操作することにより内容の理解につながっていくのか、また、本児の読解力にマルチメディアデিজネーション化はどのように影響しているのかを探りたい。

金森裕治（大阪教育大学）

小学校5年生の児童に対して、4年生の2学期よりタブレットでのデジ教科書の活用を始めた。タブレットを使用し「自分ひとりで」「時間内に」問題が解けたことへの喜びがとて大きく、自信へとつながった。3学期からはテストをデジ化し、今まではペーパーベースでの書き込みでは、国語など一桁の点数、二桁あれば良いほうだったが、平均点前後又はそれ以上の点数を取ることができるようになった。それだけではなく、本人のテストへの取り組む姿勢が、とても前向きになった。学習も含め学校生活にとても意欲的に取り組むようになった。

【指定討論者の趣旨】

検定教科書の大部分はマルチメディアデিজネーション版が提供されているが、副教材や単元テスト等に関してはいくつかの先進的試みがあるものの、デジ化が進んでいないのが現状である。特に試験で読み書き困難な児童生徒への支援がなければ題意を理解できず、単元の内容理解が充分でも実力を発揮できない結果となりかねない。指定討論者は各話題提供者の報告を踏まえ、デジ版試験問題の「①有効性 ②適合性」、今後進めてゆくための「①制度 ②環境」の視点から、特に試験方法の標準化、使用方法の習熟、教室での理解とルール等に関して討論に参加する予定である。

(KANAMORI Yuji, KUSUNOKI Keita, ISAKA Yukie, MORI Keiko, Yanagihara Nobuko, KAMIYAMA Hiroshi)